

令和4年度第2回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会会議録

1 日 時 令和4年12月6日(火) 午後7時～8時

2 場 所 市防災センター3階302・303 会議室

3 出席者 委員長 押尾 賢一 (学識経験者)
副委員長 渡辺 秀貴 (学職経験者)
委員 惣川 ひさえ (市民委員)
委員 氏家 嘉代 (市民委員)
事務局 植木 崇晴 (学校教育課長)
佐々木 淳樹 (学校教育課教育庶務係長)
藤田 真衣 (学校教育課教育庶務係)
三角 紳太郎 (学校教育課教育庶務係)
担当課 松岡 弘悟 (教育部理事兼指導室長)
角田 恒一 (指導室統括指導主事)

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 事

(1) 令和4年度(令和3年度実施事業)再評価について①

担当部署：指導室

(2) その他

7 会議概要

委員長 これより、令和4年度第2回教育委員会自己点検及び評価に関する審査委員会を開催する。

まずは事務局から、本日の資料の確認をお願いする。

事務局 資料は、事前に送付した資料が全てである。次第、狛江市教育委員会の自己点検及び評価報告書(2-1-2抜粋)・(2-2-2抜粋)、資料1「令和3年度狛江市立学校第三者評価委員会報告書概要版」、資料2「令和3年度学校経営計画」、

資料3「令和4年度学校評価計画」、資料4「令和3年度学校評価自己評価表」、資料5「令和3年度教務主任会について」、資料6「教務主任会次第・記録用紙」、資料7「狛江の教育21 研究発表会案内」、資料8「狛江の教育21 研究報告書」である。

本日は担当部署として、指導室より、松岡教育部理事兼指導室長、角田指導室統括指導主事にお越しいただいている。

(松岡教育部理事兼指導室長 挨拶)

(角田指導室統括指導主事 挨拶)

- 委員長 資料に不足等なければ、次第に従い、議事を進める。
次第1「令和4年度（令和3年度実施事業）再評価について①」について審議する。
今年度の評価は、前回の会議で、「2-1-2 学校評価を積極的に活用し、教育活動の改善・充実を図ります。」と「2-2-2 地域の願いや子どもたちの声を生かした学校経営を推進します。」を取り上げることとした。
本日は、主に「2-1-2 学校評価を積極的に活用し、教育活動の改善・充実を図ります。」の担当部署である指導室にお越しいただいている。
それでは指導室より、昨年度の取組結果等、事業内容の説明をお願いします。
- 担当課 教育部理事兼指導室長、指導室統括指導主事より概要説明
(資料1～資料8に基づき説明)
- 委員長 それでは、この項目について質問・意見はあるか。
- 氏家委員 日々多くの業務に追われ、さらに課題や目標に対する改善策を講じること等から、先生方の多忙さがうかがわれる。教務主任が担任を持っている場合、さらに多忙ではないか。
- 統括指導主事 教務主任については、担任を持っている先生もいれば、算数少人数等を担当している先生もいる。教務主任は週2時間から3時間の時数軽減があり、その時間を教務主任業務に充てることができる。
- 氏家委員 先生方の業務負担が大きく、子どもたちと向き合うという本務ができなくなることを一番心配している。
- 惣川委員 コミュニティ・スクールの導入が今年度から始まり、小中学校と地域との

関わりについて、今後の考えを伺いたい。

指導室長 今年度からコミュニティ・スクールが始まり、また地域学校協働本部という組織もあり、地域コーディネーターとして協力していただいている。この方たちに先生方とコミュニケーションを取りながら、学校に必要な地域人材を発見していただけることを期待している。学校の教育活動に外部人材を取り入れるためには、このような取組みは非常に効果的であり、またコミュニティ・スクールは小中連携を進めていく上でも意義があると考えている。

事務局 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動については、次回、所管部署である学校教育課と社会教育課から説明させていただく。

惣川委員 来年からこども家庭庁が設立される。狛江市はこども家庭庁とどのように関わっていくのか、考えがあれば教えていただきたい。

指導室長 こども家庭庁自体がどのような組織になっていくのかによって、狛江市の関わり方も変わっていく。国の動向を注視するとともに、子ども家庭部はもちろんのこと、福祉部門ともこれまで以上に連携を図って対応していきたい。

副委員長 3点伺いたい。1点目は、評価について、学校現場にいたときから、評価のための評価を行うという実感を持っていた。コミュニティ・スクールや地域学校協働本部も加わり、それぞれが目標を設定して評価をすることで、先生方の業務が増えていってしまう。先生方がそれぞれの制度の理念を実現する上での余力を持ってもらうためにも、統合していく工夫が必要ではないか。

2点目は、小中連携は古くて新しいテーマであり、小中連携が進んできた結果、先生方の働き方改革も進んでいく道筋が見えると良い。狛江市の小中学校の文化の融合が、どんな取組みによって進められているのか。

3点目は、質の高い教育の実現のために、カリキュラムマネジメントは中核の一つとなっており、行政から学校に教育課程編成のあり方等、膨大な資料の作成を求めていた。現在、変化があれば教えていただきたい。

指導室長 評価については、各制度を統合していく考え方は必要になると思う。PDCAサイクルによって、課題の部分は翌年の指標となる。しかし、不易と流行があり、いつまでも不易の部分を評価対象にしていると毎年同じことを繰り返すことになってしまう。そこで、教育委員会は何をどう評価するのかを明確にしなければならない。学校として大切にしたい伝統が今どういう状態なの

かを測る必要があるとともに、教育委員会として新たに解決すべき教育課題を明確に示す必要がある。

統括指導主事 小中連携について、小中学校の文化の違いを踏まえ、各主任会議で小中学校の情報交換を行い、互いの指導内容等の理解を図っている。また、小中連携事業「かけはしプロジェクト」においては、昨年度は外国語教育の指導方法の共通理解とICTの活用事例の情報共有を行った。小中学校の先生が互いの教材を見ながら、どういう指導をしているのかについて、少しずつ交流を進めている。今年度はコミュニティ・スクールを導入したため、今後より一層小中連携を図りたいと考えている。

質の高い教育について、一つ一つの教育活動が結びつくことによって、子どもたちは総合的な力がつくと考えている。今年度から各校でESD推進カレンダーを作成しており、テーマを設定し教科横断的な視点で、深い学びを目指すこと等で、カリキュラムマネジメントを行っている。

指導室長 カリキュラムマネジメントについて補足する。狛江市の子どもたちの学力について、「書くこと」が課題となっている。課題の部分を全校で共有し、強化を図っていく必要がある。また、各校の特徴的な取組みについては、紹介し合う機会も必要だと思っている。

各教科のつながりについて、例えば、小学校の体育のカリキュラムマネジメントにおいては、跳び箱の運動で体の仕組み等、理科の授業との連携が必要になる。まず、このような取組みをESDカレンダーをとおして、しっかり実践してほしい。

委員長 3つの提案がある。1つ目は、校長が年度単位の経営計画を作成すると同時に、中期計画も作成している。校長の異動によって、作成した中期計画が実行されなくなる懸念があるため、中期計画をどのように支えていくかを考慮する必要がある。

2つ目は、小中連携は良い取組みである。小中学校のそれぞれの根幹を活かしながら続けていくためには、絶えず顔を合わせて理解し合うことが大事だと思う。横浜市の東山田中学校は、カレンダーを統一し、1つのカレンダーに小学校と中学校の全ての学校行事を記載している。保護者が小中学校の年間スケジュールを一目瞭然で確認できる。校内関係者に無料で配布しているとともに、外部の必要な方にも有料で配布している。このように、小中学校の共通するものをそれぞれの中学校区の小中学校で考えていくことが大事だと思う。

3つ目は、学校によって校内業務の固有名称が異なる場合がある。狛江市として、同じ学校業務の場合、その名称を統一した上で、それぞれの地域に必要な特別なものを加えれば良いと思う。例えば、研究部会と研究推進会の名称がある場合、どちらかに統一して、校内の研究組織として進めていく。そうすることで、他の学校の業務内容も理解しやすく、連絡も取りやすくなる。

また、四中の自己評価表において、ICT機器の活用に関する評価は2となっているため、先生方にもっと積極的にICTを活用してほしい。先日千葉市のある高等学校の1年生の探求学習の授業を見学した。千葉市の創生プロジェクトという市の大きなテーマの中で、生徒は班ごとに様々なテーマを設定して、考察を経て、まとめの発表を行った。そこで、中学校3年生までにはプレゼンテーション能力の育成と、研究の手順の教育が大事だと実感した。そのためには、小中連携の取組みで小学校と中学校において、ICT活用のそれぞれの目標について話し合うことがとても有益だと思う。

副委員長 狛江市は2013年からiPad40台を小学校に配置した経緯があり、小学校の方が中学校より活用率が高いのではないかと察する。世の中の追い風もあり、ICTの活用で授業が変わる。指導計画において、9年間で子どもたちの情報活用能力と問題解決能力の資質能力を高められる構想を期待する。

現在、全国的に教員不足の問題があり、先生方は病気休暇や産体育休を取得しにくい。副校長が2学級をかけ持ちで代理担任を勤めているケースもある。地域の人材活用においても、人手が足りないと、施策も進まず、教育の質も上がらない。狛江市の現状を教えてください。

指導室長 中期計画についてだが、校長職も異動や退職等で人が変わることも当然にあることであり、狛江市の教育施策が一貫性を持って継続的に展開されていくよう、校長との話合いの機会を設け、それぞれの考えをしっかりと共有・把握することが大切だと思う。

東山田中学校の取組みを一つの参考として、各校に情報提供をしていきたい。

タブレットについては、GIGAスクール構想において中学校に配置している端末はiPadではなかったが、現在、順次中学校にiPadを導入していくことで調整している。通信環境等を含めて、子どもたちがICT機器を活用しやすい体制を整えていく。

教員不足については、子どもたちの学習指導ができる教員免許を持っている人材が足りないため、苦勞している。

惣川委員 3月に3年ぶりに「中央公民館のつどい」と「いべんと西河原」が両館で合同開催される。こういった取組みは公民館長の異動で統一性にかけていると感じている。勉強は学生時代から始まり、大人になっても継続していくため、教育は継続性が何より大事だと思う。また、人生100年といわれる時代だが、成人までの18年間の教育を如何に充実させるかが最も大切だと思う。公民館の空いている部屋を子どもたちの勉強スペースとして開放する取組みを行っているが、ぜひこういった取組みを継続していただきたい。公民館は地域連携のためにも一歩前に出ていく考えが必要であり、学校教育と一緒に考える必要があると思う。

委員長 他に意見等あるか。なければこれで指導室への質疑を終了する。
次に、「(2) その他」について、事務局から次回の日程の確認をお願いする。

事務局 次回の第3回は、12月22日に開催する。担当部署は、学校教育課、社会教育課である。

委員長 事務局の説明について、質問や意見等があればお願いします。

(なし)

委員長 特になければ、これにて令和4年度第2回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を終了する。